主日礼拝　２０２１年3月２１日（日）
題　『人の子は仕えるために』
テキスト：マルコによる福音書１０章：３５～４５節

以前お伝えしたことがありますが、マザーテレサの言葉に「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。」とあります。受難節の歩の中で心に覚えて置きたいとことばだと思いました。このことばには日常生活で気をつけないといけない戒めだけではなく、励ましも感じることができるように思えます。「心で思うことに気をつけましょうね。」と。

今日の聖書の個所からも示される思いがしました。今日の聖書の個所には、イエスの弟子のヤコブとヨハネの主イエスへの願いが記されています。

この個所の前にはイエスさまの三度目の死と復活の予告が記されています。33 節には「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。34:異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」との主イエスの切実な思いが弟子たちに向けて語られています。この時、弟子たちは、もう 3 年間あまりイエスと生活を共にして、イエスから神の愛を学んでいたはずなのです。

特にヤコブとヨハネは、弟子たちの中でもガリラヤ湖のほとりで、ペトロとアンデレ共々、最初に選ばれた弟子たちでした。いつもイエスのそば近くにいたのです。ということは、イエスに受け入れられ、イエスさまの心を一番理解していたはずだと思えるのです。　ところがです。今日の聖書個所によれば、

35:ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」とイエスに頼みごとをするのです。この時、イエスさまは彼らの心の内を知りつつ、「何をしてほしいのか」と尋ねました。

イエスさまは、良く出会った人に「何をしてほしいのか」と尋ねられるのです。この先のこととして、道端に座って物乞いをしていた盲人バルティマイにも「何をしてほしいのか」と言われました。「人は一番の願いは、なかなか人には言えない。」と言われます。だいたい 2 番目か 3 番目の願いを言う事が多いのではないでしょうか。みなさん、どうですか？

ここで、弟子のヤコブとヨハネは、正直というか、イエスさまが本心を引き

出されたかのように、
「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」との頼みごとをしたのです。
　ここを読んでいて、これは主イエスと神さまは、人間の本心、自分でも気づいていない、人間の本心、わたしたちも例外ではありません。わたしたちの心の根っこをご存じだということでもあると思いました。
　単純というか、あつかましいというか、弟子のヤコブとヨハネは、
　地上に神の国が来た時、主イエスがやがて、時のローマ皇帝のような、ユダヤのかつてのダビデ王のような権力を持った時に、「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」と頼むのです。昔の日本であれば、右大臣、左大臣としてください、ということかもしれません。
　彼らの思考の中心、地位を求め、力を求める心があったのです。
　そういう私の心の中にも「あるな～。」と思わされる時があり悲しくなるのです。　そんな時、讃美歌の「キリストにはかえられません」の歌詞を思い出すのです。
「１、キリストには代えられません　世の宝もまた富(とみ)も
　　この御方がわたしに　代わって死んだゆえです
　　世の楽しみよ去れ　世の誉(ほま)れよ行け
　　キリストには代えられません　世の何物(なにもの)も
２、キリストには代えられません　有名な人になることも
　　人のほめる言葉も　　この心を引きません
　　世の楽しみよ去れ　世の誉(ほま)れよ行け
　　＊キリストには代えられません　世の何物(なにもの)も
３、キリストには代えられません　如何に美しいものも
　　この御方で心の　　満たされてある今は
　　世の楽しみよ去れ　世の誉(ほま)れよ行け
　　＊キリストには代えられません　世の何物(なにもの)も」と。
イエスさまは、二人に、
「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」と尋ねられました。
　「このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼」とは、この先、エルサレムでイエスの受ける苦難の道、十字架への道を共に歩めるか、ということ。その覚悟があるかということ。十字架は、苦しみであり、痛みであり、

侮辱を受けること。誰もが避けたいこと。しかし、十字架こそが栄光となるという逆説です。キリスト者は苦難の中で神の恵みを知っていけることを知っている者たちです。二人は「できます」と言います。
イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。」確かに、弟子たちは、イエスの十字架、復活の出来事、そして天上に昇られた後、イエスの弟子として迫害を受けたのです。ですから、この「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。」との主イエスの言葉は、
やがて弟子たちの受ける「受難予告」であったように思います。事実、使徒言行録 12 章 1～2 節によれば。弟子のヤコブは殉教の死を遂げています。
40:しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることで
はない。それは、定められた人々に許されるのだ。」と言われます。
ここの個所のことばは、いろんな日本語訳聖書では「神が決めること。」とか「鍛えられた人」とか「備えられている者」と訳されています。
イエスさまは決定を神さまに委ねられるのです。わたしは、決定を神さまに委ねるイエスさまの謙虚さを見る思いがします。
この二人の、自分たちを出し抜くような姿勢を見た他の弟子たちは腹を立て怒ります。
41:ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て
始めた。他の弟子たちが腹を立てるのは、当然だとは思います。そこにいたら、わたしも腹を立てると思います。
イエスさまと神さまは、わたしたちの汚れやすい心の中を見てくださり、そこをきれいに美しくしてくださるのです。力強く、爽やかな聖霊を送ってくださり、慰め、励まし、時に戒めて清めてくださるのです。ありがたいことだと思うのです。
そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われました。「あなたがたも知っ
ているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民
を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。
43:しかし、あなたがたの間では、そうではない。
キリスト者の交わりの、教会の交わり、キリスト者の家庭における根本的な教えです。
あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、
44:いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。主イエスの自覚です。
45:人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の

身代金として自分の命を献げるために来たのである。」いやいや行うのではなく、イエスにならって、あたかもイエスさまをもてなすつもりで行うのです。それが奉仕なのです。奉仕には少々の苦しみとそれを超える感謝と喜び、平安が与えられます。それを体験して行くのです。

イエスさまは愛ゆえに苦難を負い、十字架につけられ死ぬという生き方によって、互いに仕える、互いに愛し合うという人間関係のあり方を開いてくださったのです。　この神の愛の教を伝えられている私たちも、教会内で家族の中で思いと言葉と行いでイエスにならう者たちに少しでもなって行きたいと願います。

◆ヤコブとヨハネの願い

35:ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」
36:イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、
37:二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」
38:イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」
39:彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。
40:しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」
41:ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。
42:そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。
43:しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、
44:いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。
45:人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」